

令和4年第6回臨時会

歌志内市議会会議録

第1日目（令和4年11月25日）

（午前9時57分 開会）

開会・開議宣告

- 議長（川野敏夫君） おはようございます。
ただいまから、令和4年歌志内市議会第6回臨時会を開会いたします。
ただいま出席している議員は7名であります。
定足数を満たしておりますので、これより本日の会議を開きます。

会議録署名議員の指名

- 議長（川野敏夫君） 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。
会議録署名議員は、議長において、3番山川裕正さん、6番本田加津子さんを指名いたします。

会期の決定

- 議長（川野敏夫君） 日程第2 会期の決定を議題といたします。
お諮りいたします。
今臨時会の会期を本日1日間としたいと思います。
これに御異議ありませんか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
○議長（川野敏夫君） 御異議なしと認めます。
会期は本日1日間と決定いたしました。

諸般報告

- 議長（川野敏夫君） 日程第3 諸般報告であります。
事務局長から報告をいたします。
中嶋議会事務局長。
○議会事務局長（中嶋孝君） 報告いたします。
この臨時会に付議されます議案は、市長より送付を受けた議案1件であります。
次に、議長の報告でございますが、令和4年第5回臨時会以降、昨日までの議会動向につきましては、本日、別紙配付しております諸般報告のとおりでありますので、御了承願います。

また、本会議に説明のため出席する者、本会議の事務に従事する者等につきましては、別記記載のとおりであります。

本日の議事日程については、別紙配付してあります議事日程表のとおりであります。

次に、議員の出欠席の状況であります。本日は全員の出席であります。

以上で、報告を終わります。

○議長（川野敏夫君） 特段の発言はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（川野敏夫君） ないようでありますので、諸般報告を終わります。

市 政 報 告

○議長（川野敏夫君） 日程第4 市政報告であります。

一般行政について報告を求めます。

柴田市長。

○市長（柴田一孔君） ー登壇ー

おはようございます。

上歌最終処分場への赤平市一般廃棄物の受入れについてでございます。

赤平市は、平成29年に赤平市最終処分場の残余容量測量調査を行ったところ、令和元年度末をもって満了となることが判明し、令和2年度から4年度までの3年間を目途に緊急的に上歌最終処分場にて一般廃棄物を受け入れてきました。赤平市においてはこれまでの間、新しい最終処分場の建設に向けた検討を行ってまいりましたが、適地とされる場所には田畑があり、農業経営の妨げになると判断し、また、田畑から離れた場所においては、山を削り、土地を確保しなければならないほか、取付け道路の附帯工事や電線、給排水施設の整備などの必要も生じ、さらに現下の建設資材の高騰もあり、新しい最終処分場の建設が市の財政面を含め、困難との判断をいたしました。

このような検討結果から、去る10月27日に赤平市は費用面においても単独で処分場を用意することよりも、負担金を払い、引き続き上歌最終処分場を利用させてもらえたほうが市財政負担が抑えられるとの結論から、令和5年度以降も引き続き本市への受入れ継続のお願いについて正式な要請がありました。

現在の受入れに当たっては、事前に地元、上歌新栄町自治会の住民の合意を得て確認がなされておりましたので、今回も同様に、去る11月10日に上歌新栄町自治会への住民説明会を実施いたしました。自治会長をはじめとする会員のほか、歌志内市町内会連合会会長、赤平市市民生活課の職員同席の下、赤平市の検討結果、これまでの搬入実績、処分場の稼働推計年数などの説明を行い、地域住民からは、お互い助け合って、これからも受け入れることに賛成するとの意見をいただき、地元自治会の合意を得たところでございます。

なお、上歌最終処分場の残余容量は、平成30年度末では2069年度まで使用可能との推計でありましたが、現状の搬入量で推移した場合では、さらに使用可能期限が延長となる推計結果となっております。

本市といたしましては、広域的に事務処理や事業運営ができるものは、相互の利点を生かし、また連携し行政運営を推進していくことが今後の地方行政の進め方であり、現にし尿処理については赤平市に共同処理運搬を委託し、プールにおいては赤平市民プールを利用させていただいております。

これらのことから、隣接する赤平市の廃棄物処理の状況を鑑み、令和5年度以降も継続して一般廃棄物を受け入れる方向で取り組む所存であります。

以上でございます。

○議長（川野敏夫君） これより、質疑に入ります。

質疑ありませんか。

下山則義さん。

○4番（下山則義君） 何点か質疑させていただきたいと思います。

まず、市民に対する説明は十分にされて、そして、その場所に対する市民の方々から、では、よろしいですという内容で今、市役所は受け止めている、これでよろしいのか、それ1点をお願いいたします。

それと、50年間ぐらいまだまだ容量としてあるのだと。ごみの排出量が少なくなってきている、そのような状況もあろうかと思えますけれども、その50年間はまた今の歌志内市の上歌最終処分場でもつのだと。

それはもつというのは分かりました。もって50年後となると、恐らく次の代の方々はどうするかということを決めていくことになると思うのですが、今のある状況がしっかりと50年後の方々も分かる状況で話し合いを持ってもらうということになって、恐らくすると思うのですが、そういったこともしっかりとできるのだということがなされる、それも確認しておきたいと思います。

3点目であります。赤平市と歌志内市、一番最初の人に、今、赤平ではこういう状況なので歌志内さんお願いしますというような内容で私も受け止めています。何点か質疑をさせていただきましたけれども、そういう状況であればやむなしという内容で私も賛成したのですが、今、いろいろと探しているのだけれども、なかなか見つからない、要するに赤平がどれだけ懸命になったのかということをごどのように受け止められておられるのか。

その3点につきまして答弁させていただきたいと思います。

○議長（川野敏夫君） 佐藤市民課長。

○市民課長（佐藤幸哉君） まず、1番目の市民への説明ということでありまして、それは理解を得ているという考え方でありまして。

2番目の50年間という話でございますが、50年間と出たものにつきましては当初、3年前に赤平市の状況がということで歌志内市に要請を受けた経過がございます。歌志内市が調べていたときにおいては、今後50年間という形で議員の皆様方に当時の周知があったのかなと思っております。

それで、平成31年3月に当市として今の上歌最終処分場の残余容量調査を実施した経過がございます。当初においては、赤平市さんのほうから出てきている過去3か年の容量というものを平均してやっていたのですが、それを現状のこの3か年、令和2年、3年、4年度、一部見込みが入っていますけれども、その3か年の平均値のごみの容量で推移計算を、今後の見込みを立てたところは一応50年という数字が83年という数字が出ているのですが、そのような形で延長がなされております。

そこで、今後、下山議員のほうから50年という今後の見通しという部分で未来に対してどう協議をしていくのかということになってくると思うのですが、赤平市さんとの事務レベルの話といたしましては、とはいえ、ごみの容量というものがこれから推移、当然入れて、処分場の量というものがかさんでいきます。それらについては常に把握をしながら、また10年をベースとしながらその二、三年前、7年、8年前にはお互いの確認ということもあります。

しょうから、残余容量調査というようなこともしていかなければならないというような形で今後の推移というのを見ていかななくてはならないというふうに思って協議をしているところでございます。

3番目の赤平、歌志内でどれだけということをやむなしとした経過ということでございますが、これにつきましては、現状の事務レベルとしては、赤平市さんのほうにおいても検討した部分においては3か所、4か所程度の適地ではないかというところを探したということで私たちは確認しておりますが、そこにおいてもやっぱり、赤平市さんは農業も一つの基盤産業として持っております。その場所を聞きますと、やはりどうしても農業という部分の田畑というものもございまして、そういう部分が赤平市さんの適地ということではなかなか見つからなかったと。

また、山を切り開いてということですのでそういう場所を、当然、廃棄物を処理する場所においては奥地というところがどの市、町においても処分場が建設されております。山を切り開いてということまで考えていたところもあるそうですが、当然ながら造作を、山を切り開くとなれば、それに対する費用面、期間面も含めてそういうような類いではなかなか大変な状況に陥るということで、最終的には歌志内市としては、先ほどの市政報告であったとおりで、近隣市町、今の行政というものについて連携しながら広域行政ができるものであればということも踏まえまして、そのような確認をさせていただいて、歌志内市としても赤平市のごみというものを総合的ないろいろな見地から受入れを今後もしていきたいという考え方に至りました。

以上です。

○議長（川野敏夫君） 下山則義さん。

○4番（下山則義君） さらに1点確認したいのですが、あとどのぐらい入るのかという容量を確認するとき、ちょっと費用をかけてメッシュの測量というのを行って大体そういうふうに出すというのが普通の感じでございます。

ただ、多額の金がかかるということも知っています。しかしながら、今の状況を考えたときに、それは定期的に、そして残量が少なくなりましたよというときには必ず正しいものを出しながら、この次どうするのかということは今、このままの状態で行くのであれば歌志内市と赤平市の話合いの基に物事を進めていかなければならないということが重要なことなのだと思います。

そういったこともしっかりと間違えないような状況をつくりながら赤平市とともにやっていく、こういう考えでおられるというふうに聞いてよろしいのか、最終的な答弁をお願いいたします。

○議長（川野敏夫君） 柴田市長。

○市長（柴田一孔君） 今後の残余容量という部分でございますけれども、先ほどの私の報告は2069年ということで、今、2022年ですから47年ぐらいというデータになっておりますけれども、今、下山議員の御意見のとおり、メッシュ測量ということでもかなり費用がかかりますので、長いスパンを考えると10年あるいはあとまた10年という部分に関しては、むしろ簡便な調査という部分も視野に入れながら経費の軽減というものも考えていかなければならないと思っております。

ある程度の年数を見ながら、現在の残余容量というものを確認しながら今後の先を見据えて、そして、満杯になってくる手前のある程度の年数で今後どうするかというものを赤平市といろいろ検討していかなければならないかと思っております。

○議長（川野敏夫君） ほかに質疑ありませんか。

女鹿聡さん。

○7番（女鹿聡君） 今の下山議員の質疑の中でほとんど内容は分かりました。

こういった事態になっていますので、ほかの市、町とも仲よく、そういったところは相互関係をもって進めていくというのは今の時代ではそういったことになっているのかなと思いますのであれなのですが、今後、いろいろな調査だとか多分行われると思うのですが、そういった時々議会なり本会議なり委員会なりに多分示されてくると思うのですが、それはどういうふうな形で、どれぐらいのスパンで、半年に1回なのか1年に1回なのか、そういったところも協議していかないと、私たちのほうでも協議をしていかないといけないと思いますので、どういうふうな感じで考えているのかちょっと聞いておきたいと思います。

○議長（川野敏夫君） 平間副市長。

○副市長（平間靖人君） どういった形で、どういったタイミングで議会のほうに報告されるかという御質問でございますけれども、基本的には毎年度、赤平市からのごみの受入れに当たって、受け入れるための費用について両者検討という形がございますので、そのタイミング、毎年度の予算の前にはやはりその辺は報告しなければならないのかなと思っております。

さらに、運搬、受入れに当たって、何か事故等というのはなかなか起きてほしくない部分ではありますけれども、そういったものがありましたら適宜、議会、委員会のほうに報告させていただきたいとそうように考えております。

○議長（川野敏夫君） 女鹿聡さん。

○7番（女鹿聡君） 赤平市も入ってということになるので、私たちだけの判断ということにもならなくなってくると思いますので、その辺は適宜、今、副市長がおっしゃられたように、何かあったときには必ず報告ないし議案にさせていただいて提出していただきたいと強く思いますので、その辺、最後、市長に答弁いただいて終わりたいと思います。

○議長（川野敏夫君） 柴田市長。

○市長（柴田一孔君） 毎年のごみの容量、毎年報告しなければならないと思いますので、最寄りの行政常任委員会などの中で、そういった数値の報告をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（川野敏夫君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（川野敏夫君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。

以上で、市政報告を終わります。

議案第39号

○議長（川野敏夫君） 日程第5 議案第39号教育委員会教育長の任命についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

柴田市長。

○市長（柴田一孔君） ー登壇ー

議案第39号教育委員会教育長の任命について、御提案申し上げます。

下記の者を教育委員会の教育長に任命したいので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第1項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

記。

住所、滝川市花月町3丁目3番30号。

氏名、織田靖雄。

生年月日、昭和37年1月1日。

提案理由は、教育長、渡部一幸氏が令和4年11月30日をもって任期満了し、退任となるため、新たに任命しようとするものでございます。

任期は3年間でございます。

次のページをお開き願います。

織田靖雄氏の略歴でございます。

本籍地、歌志内市字中村5番地12。

現住所、滝川市花月町3丁目3番30号。

学歴、昭和59年3月、北海道教育大学岩見沢校小学校教員養成課程卒業。

職歴、昭和59年5月、札幌市立月寒東中学校時間講師。

昭和59年9月、樺戸郡新十津川町立新十津川中学校期限付教諭。

昭和60年8月、滝川市立西小学校期限付教諭。

昭和61年4月、勇払郡厚真町立檜山小学校教諭。

昭和62年12月、勇払郡厚真町立檜山中学校教諭。

平成元年4月、深川市立多度志小学校教諭。

平成6年4月、マレーシア国ペナン日本人学校教諭。

平成9年4月、深川市立多度志中学校教諭。

平成14年4月、芦別市立西芦別中学校教頭。

平成16年4月、歌志内市立歌志内中学校教頭。

平成19年4月、滝川市立滝川第三小学校教頭。

平成22年4月、コロンビア国ボゴダ日本人学校教頭。

平成25年4月、滝川市立滝川第三小学校教頭。

平成28年4月、歌志内市立歌志内小学校校長。

平成31年4月、歌志内市立歌志内中学校校長。

令和3年4月、歌志内市立歌志内学園校長。

令和4年3月、定年退職。

令和4年4月、空知教育センター所長（滝川市会計年度任用職員）。現在に至る。

以上でございますので、御同意賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（川野敏夫君） これより、質疑に入ります。

質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（川野敏夫君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。

これより、討論に入ります。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（川野敏夫君） 討論なしと認め、討論を終わります。

これより、議案第39号について採決をいたします。

ただいまの議案については、原案のとおり同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（川野敏夫君） 御異議なしと認めます。

したがって、議案第39号は、これに同意することに決しました。
ここで暫時休憩いたします。

午前10時23分 休憩

○議長（川野敏夫君） ここで、任期満了により教育長を退任されます渡部教育長及び新たに教育長に任命同意されました織田靖雄さんより御挨拶を受けたいと思います。

初めに、任期満了により退任されます渡部教育長にお願いをいたします。

渡部教育長、御登壇願います。

○教育長（渡部一幸君） ー登壇ー

議会中の貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございます。

退任に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

3年間という短い期間でございましたが、私としては教育という未知の世界で、そして、新型コロナウイルス感染症により教育の分野も大きく影響を受ける中で、できない理由よりどうしたらいいのかを考えることと、現状維持は衰退であるという2点を自分への戒めとして念頭に入れ、仕事をしてまいりました。その一つといたしまして、このコロナ禍におきましてICT環境の整備を一気に進めることができ、今では全学年でオンラインでの授業などができる状態となったことは、先生たちの御努力と議員各位の御理解のたまものと感謝しております。

まだまだやりたいこともあり残念ではございますが、種はまいてきたつもりでございます。ぜひ、育てていただくことを期待し、次の方にバトンを渡したいと思っております。

議員の皆様には、一般職の時代からいろいろとお世話になりました。古くは法に基づく財政健全化計画策定や個別外部監査、最初の総合戦略策定のほか、自然災害も多く、それらへの対応など、この議場でいろいろお話をさせていただきました。

最後は、教育行政に関わることができ、よい経験を積む機会を与えてくださいましたこと、心からお礼を申し上げますとともに、今後とも本市教育のさらなる充実、発展のため御支援、御協力を賜りますことをお願いし、退任に当たっての御挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

○議長（川野敏夫君） ありがとうございます。

大変御苦労さまでございました。

次に、新たに教育長に任命同意されました織田靖雄さんをお願いをいたします。

織田靖雄さん、御登壇願います。

○（織田靖雄君） ー登壇ー

おはようございます。

議会中の貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございます。

先ほど、本議会におきまして、教育長の任命について御同意を賜りました織田でございます。心からお礼を申し上げ、一言御挨拶とさせていただきます。

渡部教育長をはじめ、歴代の諸先輩方が築いてこられた歌志内市の教育行政に携わらせていただくこととなりますが、学校教育、社会教育という営みを通して、歌志内市の教育振興にどのような貢献ができるのかと考えたとき、その責任の重大さに身の引き締まる思いでございます。

私は、平成16年に歌志内中学校の教頭として着任をきっかけに9年間、この歌志内に身を置かせていただき、市民の皆様とともに歩んできました。特に、校長として勤務させていただいた6年間は、日本一小さな市の大きな挑戦として小学校全学年への英語教育の導入、小中一

貫校の導入、最後には空知管内で初めてとなる義務教育学校の設置と、教育長をはじめとする教育委員会の皆様や保護者、地域の皆様とともに空知の教育を牽引してまいりました。

これからの時代は、技術革新が今まで以上にスピード感をもって進んでいくことが予想されています。ここ数年の子供たちの学習環境をはじめとする生活環境の変化がそのことを予見しており、子供たちはもちろん、大人になっても世界変化に対応するためには、生涯にわたって学び続けることが重要で、子供たちを指導したり共に学びあったりすることも、とても大切となってきます。そのためにも、歌志内市総合計画の後期基本計画の基本目標にあります「豊かな心を育む教育と文化のまち」の実現に向け、学校教育や社会教育の推進をはじめ、芸術文化、スポーツの振興の充実もしっかり取り組んでまいりたいと考えております。

終わりに、教育委員をはじめ、学校、保護者の皆様、そして、教育関係団体の皆様との連携を大切にし、歌志内市の教育行政の代表として、市議会、市民の皆様の御理解、御協力をいただくことができるよう誠心誠意全力を尽くしてまいり所存でございます。

以上を申し上げ、就任に当たっての御挨拶とさせていただきます。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

○議長（川野敏夫君） ありがとうございます。

以上で、教育長の退任及び任命同意の御挨拶を終わります。

午前10時30分 再開

○議長（川野敏夫君） 休憩を解いて、会議を再開します。

閉 会 宣 告

○議長（川野敏夫君） 以上で、本日の日程は全部終わりました。

これをもちまして、令和4年歌志内市議会第6回臨時会を閉会いたします。

御苦労さまでした。

(午前10時31分 閉会)

上記会議の顛末を記録し、その相違ないことを証するため、
ここに署名する。

歌志内市議会議長 川 野 敏 夫

署名議員 山 川 裕 正

署名議員 本 田 加 津 子